



いとう きんいち
伊藤 欽一 議員

防雪柵を含めた 安全対策は 防雪柵によらない安全対策を考える



ホワイトアウトで視界不良の県道56号線

質問 この地区には、舟形小学校やほほえみ保育園、福祉避難所（てとて）の他子育て支援住宅などがあります。また、令和13年度の供用開始を目指し舟形中学校も移転する予定とのことです。今後は、スクールバスや送迎車両の通行や高齢者運転の車両などが、ますます増加すると思われます。

特に、冬期間はホワイトアウトが発生し極めて危険な状況になり、交通事故防止対策が重要な課題と思いますが、防雪柵設置を含めた安全対策の考えをお聞きます。

町長 堤防に防雪柵を設置することは、支柱が連続して堤防内に入ることになり、決壊に繋がる恐れがあります。工作物設置許可基準においても許可されていないため、防雪柵によらない安全対策を考えると県から回答がありました。これを踏まえ、県では、令和5年度の冬から、舟形小学校線との丁字路に発光式のデリネーター（視線誘導標）を設置しています。



県道56号線に設置された視線誘導標

山形県警察のデータによりますと、新庄舟形線の亀割バイパスから国道13号までの区間の交通事故は、平成29年以降、16件発生していますが、当該箇所周辺では0件でありました。また、町全体では、特定の場所での事故が多発している事例はありませんが、傾向として、

交通量の多い道路への進入や合流部分での事故が多いように感じます。

このような事故状況から、町の交通安全対策は、継続的な啓蒙や注意を喚起する標識等の設置が重要であると考えます。



かなうち まさき
叶内 昌樹 議員

地域移行による部活動場所の考えは 舟形中学校施設を活用



R6災害で土砂で覆い尽くされたグラウンド状況

質問 中学校の部活動では部員数の減少により他町村との合同での展開もあるようだが、各部活動の現状と、地域展開の動向について伺います。また、昨年の豪雨被害にあった若あゆ温泉下の多目的グラウンドをクラブ活動改革実行期間」とし、

町長 文部科学省では名称が「地域展開」に変更されており、令和8年度から6年間を「部活動改革実行期間」とし、平日は、先行して地域展開を進める地方公共団体の実践例も踏まえ、さらなる改革を推進することが示されており、現在の舟形中学校部活動の現状については、部員数の減少に伴い、近隣学校との合同部活動を行っているのは、野球部とサッカー部であります。当町の地域展開の状況については、名称を「わかあゆクラブ」として認定

動の拠点として活用を考えもあるようだが、復旧計画の方針について伺います。

要件を設けています。活動拠点につきましては、舟形中学校施設を活用することとしており、多目的グラウンドの活用は現在のところ考えていません。復旧については今年度中に土砂撤去等復旧を完成させたいと考えております。

舟形町での生成AIの有効活用はAI活用は重要な手段

質問 舟形町においては、限られた職員数の中で、業務の効率化を図るために生成AIの推進が有効と考えます。他市町村においては生成AIを有効活用した取り組みが多くなっているようだが町の方針について伺います。

町長 当町においても、限られた職員数の中で、業務の効率化を図ることは喫緊の課題であり、生成AIの活用は重要な手段の1つと考えております。今後、先行自治体の

事例や総務省の通知などを踏まえながら、当町において有効な活用方法を慎重に検討し、進めていきます。



生成AIは学習をし新たな答えを創造し回答する